

～戦争と平和を考える講演会～

この美しい地球を何時までも！

平和・九十歳余の巨木画家の訴え
再び許すまい「ある北大生の受難」

とき 2015年8月29日(土) 午後1時～6時

ところ 北海道大学学術交流会館

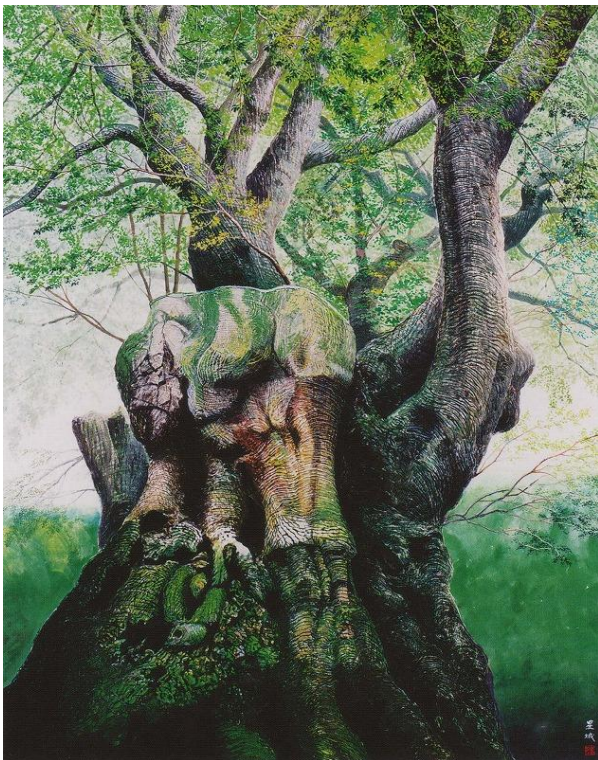
<講演>

「この美しい地球を何時までも！ 戦争と芸術」

保科 誠・画伯、日本美術家連盟会員

「繰り返すな 宮澤・レーン・スパイ冤罪事件」

山本玉樹・北大遠友学舎クラーク講座代表



保科 誠 (ほしな・まこと)

1924年伊達市に生まれる。終戦後4年間シベリア抑留生活。その間、抑留された日本軍人の階級廃止運動などを行う。

帰国後、東京で民医連、民商の設立に貢献、武蔵野美術大学において美術の研修を積み画家に。いくつもの賞を受賞。世界各地の巨木を訪ねて描く。「地球の樹木、巨木の減少の元凶は戦争である」と訴え続けている。2009年伊達市において故郷個展と講演会を行う。NHKテレビ・各新聞社で報道された。日本美術家連盟会員。バン格拉ディッシュ・日本新極美術館館長。

左写真は、樹齢2000年の顔(来宮神社の大クス)

山本玉樹 (やまもと・たまき)

1929年鳥取県に生まれる。北海道大学理学部修士課程修了。北大理学部講師を務めた。現在、北大生・宮澤弘幸「スパイ冤罪事件」の真相を広める会代表、北海道在日朝鮮人の人権を守る会事務局長、北海道平和委員会理事、北大遠友学舎クラーク講座代表

主催 北大遠友学舎クラーク講座

<お問い合わせ・連絡先>

北大工学部・山形定研究室 011-706-6835

協賛 北大生・宮澤弘幸「スパイ冤罪事件」の真相を広める会